



野鳥の 不思議解明 最前線

#93

文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2013

藪から出てきたウグイス。彼らはその場所にいる捕食者の特性に応じて巣の高さを変えたりしているのだろうか？ 撮影●吉邨隆資

イタチがいると巣が高くなる？

～イタチ導入で巣が高くなった三宅島のウグイス～

うちで飼っている猫のトマさん。行儀のよいネコで、これまでは「あがっちゃダメ」と躰けている机の上には上がりませんでした。しかし、最近平気で登るようになってしまうようになりました。我慢も効かなくなってきたし、年も年なので、ちょっとボケてきたのかも。食べ物とかトマに弄られたら困るものは机の上においておけば大丈夫だったのですが、この頃はもっと高い場所に置かなければならなくなりました。

同様にほ乳類の影響を受けて高い場所へと行かなければならなくなった鳥がいます。三宅島のウグイスです。三宅島では1980年代にネズミ対策のためにイタチが放獣されて以来、イタチが増え、その捕食被害が深刻です。以前は無数にいたオカダトカゲは、現在は激減し（長谷川1986）、地上で行動することが多くイタチに捕食されやすいアカコッコも急激に数を減らしてしまいました（高木・樋口1992）。ウグイスはそれほど顕著な影響は受けていないと考えられていましたが、巣を高い場所に変えていることが、国立科学博物館の濱尾さんたちの調査でわかりました。イタチが持ち込まれる前（1970年代前半）とイタチが定着した後（2000年代後半）のウグイスの巣の高さを比較すると、移入前の平均0.61mから平均1.79mへと高くなっていました。

でもこの高さ、イタチのいる本州のウグイスの巣よりも高い気がします。濱尾さんに聞いてみると、妙高高原では平均0.54m（濱尾1992）、埼玉はも

う少し高いものの、せいぜい1m少々とのことで、本州のウグイスよりも巣高が高くなっているようです。なぜ三宅島では高くなったのでしょうか。三宅島ではハシトガラスによる捕食例はあるもののイタチの捕食圧が高いというのが原因かもしれません。本土ですと、低い場所の巣を多く捕食するイタチなどの地上の捕食者ほか、笹藪を伝って泳ぐように移動するため高くても低くても捕食するアオダイショウ、さらには空からくるため高いところの方が捕食されやすいハシトガラスやカケスなどの捕食者も多くいます。そのため、巣の高さを高くすることで不利になる点もあり、三宅島のようには有利にならないのかもしれませんが。

このあたりは、ほ乳類の多い地域、カラスの多い地域、ヘビの多い地域など、いろいろな地域で巣の高さを比較することができたらよりクリアになるでしょう。巣探しはなかなか大変だし、また繁殖への影響にも気を配らないとならないので、まだバードリサーチでは巣箱での調査やツバメの調査を除き、巣の調査には手を出していませんが、各種鳥類の巣の高さや繁殖成績の全国比較みたいなものもやってみたいですね。

紹介した論文

Hamao, S. & Higuchi, H. (2013). Effect of Introduced Japanese Weasels (*Mustela itatsi*) on the Nest Height of Japanese Bush Warblers (*Horornis diphone*) on Miyake-jima Island, Japan. *Wilson J. Ornithol.* 125: 426–429.